



ホア ビン (平和)

## HOA BINHレポート

JVPF

特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議

NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町316番地菊地ハイツ101 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079  
#101, Kikuchi Haitzu, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079  
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

58号

2025年テト  
(1月29日)会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/特非)日本ベトナム平和友好連絡会議  
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225  
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュウ)店(当座)188872

二つのメモリアルイヤー!さらなる平和・友好の年に

## JVPFの活動の原点を見つめて



40周年に参加したJVPF訪問団(統一会堂前で)

JVPFによる枯葉剤被害者支援や少数民族支援は多岐にわたる。毎年、支援地・団体への友好訪問団。被害者記録DVDの製作3回。2005年、少数民族出身高校生への奨学金をスタート。対象を中学生へも拡大し継続。07年、ホーチミン市で「村山記念 JVPF 日本語学校」を開校。19年から枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」建設を「連合・愛のカンパ」の助成で始めた。23年から「日越友好植林事業」を開始。さらに、各県活動への援助である。

最近、世界で平和・友好が脅威にさらされている。二つのメモリアルイヤーである2025年も皆様と手を携え、さらなる平和・友好の年にしていきたいと思う。

2025テトに当たって 理事長 宝田 公治



第一世代の祖父は1957年生れ、中部クアンチで枯葉剤除染に従事。息子たちは健康だが孫たちが発症。写真の子は第三世代。ハンサムで笑顔が可愛いが四肢が不能で口がきけない。(トウエンクアン市 2025/1/21)

1945年9月2日、日本が降伏文書に署名した。同日、ハノイでベトナム民主共和国の独立が宣言され、ホー・チ・ミンが初代国家主席兼首相に就任した。この日がベトナム建国の日とされ、今年が80周年になる。

その後、東西冷戦下で北と南に分断され米国が軍事介入、61年から枯葉剤散布、65年2月には北爆を開始、本格的なベトナム戦争に突入する。75年4月30日、サイゴンが陥落し、北ベトナム軍と南ベトナム解放民族戦線が勝利する。今年は南部解放・統一50周年になる。

私たちの活動の原点は、米軍の枯葉剤散布による被害者支援である。96年から始まるベトナムアンサンブルチャリティーコンサート(2024年で、延べ408会場、来場者約121,900人)の収益金によるリハビリ施設建設などである。

2000年、NPO法人JVPF「日本ベトナム平和友好連絡会議」の設立総会で、村山富市元総理大臣を初代会長として迎え、現在も継続している。日本がベトナムと国交回復したのは1973年、その22年後の95年、村山さんが日本の総理大臣として初めてベトナムを訪問した。その後、村山さんはJVPF会長として何度もベトナムを訪問した。私も同行させてもらったことがあるが、平和・友好について多くのことを学ばせてもらった。

## 【本号の内容】

- ・2024チャリティーコンサート報告/志布志、延岡、福山、知多、吉川、相模原-2-4p
- ・宮崎MJVAベトナムセミナー開催-5p
- ・広島HVPF奨学金支援15年-5p
- ・JVPF福岡7回目の「ハノイ大学で短期研修」-6p
- ・延岡・訪問報告会開催-6p
- ・寄稿:西園街道を歩いたベトナム象-8p
- ・掲示板-7p

## 2024 枯葉剤被害者支援/ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート

### 世界で硝煙漂う中

### “わたしの体の中では戦争が終わっていない”と叫びが今も

#### 鹿児島・志布志公演

#### 「武器より楽器を」

公演実行委員会 武田 佐俊

津軽三味線の全国大会で大人をさしおいて優勝した高校生がいました。その師匠の父親が、こう言いました。「この子が優勝するのは分かっていた。それだけの稽古をしましたから。しかし、本当の苦労はこれからです。技術的に上手でも感情の移入は難しい」

相当昔のことなのに、この言葉を思い出します。この国は声と楽器の音楽があふれてる中で、私たちはそれらを聴かされています。果たして癒されているのかと思うのです。

今回のベトナムチャリティーコンサート志布志公演は、歌と楽器と踊りで癒されました。感情が籠っていたからです。250名の観客は口々に「良かった」と言っていました。

公演終了時に、会場入り口はCDを始め物販の売場には人だかりが出来ていました。公演の感動を家族で、との思いでCDを求めていたと思います。

言い古された言葉ですが、武器よりも楽器を、とつくづく思うことでした。ウクライナとパレスティナと戦火が絶えませんが、多くの観客がその想いを強くした公演でした。(2024/12/2)



公演後もロビーで歌舞団メンバーと観客で盛り上がる

#### 延岡公演

#### みんなで取り組んで、成功へ

JVPF 宮崎支部 溝口 究

JVPF宮崎県支部では、ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを県内のどの地区で開催するか議論を行った。コロナで中断する直前は日向市で行い、一昨年は門川町の文化財団に引き受けていただいた。地理的に見て、宮崎県北地区での開催が多かったため、今回は県南のほうで労働団体を通じてあったが、色よい返事をもらえず、結局県北地区の延岡市で引き受けていただくことになった。

#### 御礼

この度は、ベトナム戦争枯葉剤被害者支援のための「2024 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」（企画：IFCC 国際友好文化センター、共同企画：JVPF 日本ベトナム平和友好連絡会議）に御協力頂きありがとうございました。

アンサンブルメンバーは、2024年10月10日に来日し、10箇所13回のチャリティーコンサート、1箇所の文化交流演奏会（東京・練馬区中学校）を行い10月25日に帰国いたしました。来場者は約3,200人、チケット購入協賛者は4,000人ほどになりました。

紙面の都合で掲載できませんが、福岡公演、大分公演、さぬき公演、川越公演も好評をいただきました。

コンサート内容は各開催地で参観者の感動を呼び、参観者数も各地で予想を超え、主催者や公演実行委員会方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。特にハウドン演者の Bao Bao を招いてのプログラムは在日ベトナム人たちの高い関心を得ました。

この活動は2024年で29年を数え、コンサート年数は27年（2020年、2021年は中止）となり、累積で408会場、来場者数約121,900人を数えることになりました。

今年は1961年の枯葉剤爆弾投下から63年、来年（2025年）はベトナム戦争南部解放・統一50周年を迎えますが、今なお“わたしの体の中では戦争が終わっていない”というベトナム戦争・枯葉剤爆弾被害者の叫びに応える活動の役割が高まっているようです。

小さくともこの活動の灯を燃やし続けたく思っております。

ここに謹んで御礼申し上げます。

2024年12月吉日

2024公演事務局

延岡では、地区労組会議の役員を中心に、JVPFの会員、自治労や教組の退職者、立憲民主党の役員、「赤旗」の読者や一般の人などで実行委員会をつくり取り組んだ。

ポスターやチケットがそろったのが8月の下旬になり、一時は開催が危ぶまれたが、精力的に宣伝活動や売券活動を行った。また、パンフレットを作ることにして、連合宮崎をはじめとする労働団体や労働福祉団体に広告を出していただくよう働きかけを行い、快く協力をいただいた。

実行委員会では、チャリティーコンサートを開くにあたって、ベトナム戦争や枯葉剤の被害状況、県内にも不要となった枯葉剤が埋設されていることなど、コンサートを開くにあたって、意義等を学ぶべきだとして8月末に学習会を計画し



たが、残念ながら台風の影響で中止となった。

また、地元の夕刊紙がコンサート前後に2回ほど、チャリティーの趣旨など含めた記事を載せていただき、広がり生まれた。取り組みの結果、チケットは600枚近く売れ、当日の参加者も400人近くにのぼり、コンサートは大成功に終わった。

コンサート終了後には公演に感激した人が多く、団員と記念撮影をする人やカンパをする人などで、出口がごった返す状況も生まれた。

実行委員会の総括会議では、みんなで取り組んだことにより、売券、参加者数も多く、結果として黒字になり、成功だったとの意見が多く出された。



### 福山公演

心を込めた45名のスタッフとボンセン歌舞団演奏に満足度150%

公演実行委員会代表世話人 赤木 達男

‘2020秋公演を企画しコロナ渦で中止した福山公演。4年越しのリベンジ公演を「枯葉剤被害者支援」のためのベトナム民族アンサンブル・チャリティーコンサート in 福山」として取り組み、344名の来場者を得て成功裏に終えることができました。6月末、相互加盟で連携する広島ベトナム協会、福山ベトナム人コミュニティ、労働団体などで実行委員会を発足。3ヶ月余という従来にない短期間の取り組みでしたが、映画館にお願いしての「ドクちゃん 一フジとサクラにつなぐ愛」上映活動。福祉施設や食堂、市施設の協力をいただき開催した「枯葉剤被害パネル展」、労働組合の学習会、FMラジオへの生出演、駅頭宣伝や事業所訪問、協賛広告などを取り組みました。お陰様で当初心配された収支も、チャリティー協力券(チケット)と事業者や団体などからの協賛広告で剰余金を出し、特別支援金として枯葉剤支援に加えることができました。

公演当日はボランティアを含む45名のスタッフの心のこもった対応とボンセン劇団の素晴らしい演奏、パフォーマンスに満足度150%の感想をいただきました。

学びと交流の場として工夫した実行委員会や事務局会議は、信頼と連帯感を育み、コミュニティでの「ベトナム料理体験・交流会」の開催や「ベトナム戦争終結50周年」を迎える来年の「枯葉剤パネル展」などに引き継がれることになりました。これらの成果をもとに、来年はHVPP備後支部の結成を目指したいと思っています。



大盛況のロビーの様相/福山

### 愛知・知多公演

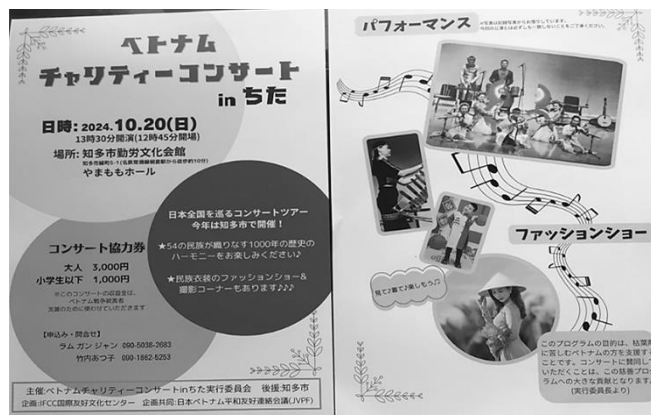
初めてのベトナム音楽に全身がひきこまれた

公演実行委員会 竹内・松下

国立ボンセン歌舞団を知多市に迎え、ベトナム戦争の始まりから今日の国の歴史を知る貴重な機会になりました。今なお後遺障害として3世4世にも影響が残り苦しんでいる人たちがいる事を再認識しました。いつの時代も犠牲になるのは兵士はじめ、すべて市民の命と暮らしにつながっています。本公演が日本全国で開催され続けていることに深い意義と強い使命感も抱きました。市内で“多文化共生”の地域活動している代表と共に実行委員会を発足、集まった15名のメンバーと市内在住20年のベトナムの方(行政の窓口で生活アドバイスをしている)を実行委員長に毎月の会議がスタートしました。会場確保、市の後援依頼、広報等、役割分担して進めてきました。開催日までの行程はベトナムの特性、文化を学ぶ場と共に仲間の結束力にもなりました。また、当市はベトナムの方々が多く在住されています。そのベトナムの若い方々の参加と関心を集める工夫を考え、歌舞団の演奏前に「あお彩のファッションショー」や「試着体験写真コーナー」をつくり日本の方々と笑顔でふれあう文化交流も出来ました。

何よりボンセン歌舞団の皆様のパフォーマンスは、ベトナムの自然を感じる幻想的な音色、腹の底や心の中にスーッとしみ込んでくるような響き、美しい歌声、たくましく柔軟な踊り、本当に素晴らしいものでした。初めてのベトナム音楽に全身がひきこまれました。「ベトナムチャリティーコンサート in ちた」に関われたことに心から感謝いたします。

ありがとうございました(平和を願って)。



ベトナムの民族衣装のファッションショーなどプログラムも創意工夫が(in ちた)

## 埼玉・吉川公演

### 宣伝活動に力をいれる。駅頭で宣伝も

公演実行委員会事務局長 岩田京子

10 月 22 日に吉川市における初開催を終えました。来場者 1 部 2 部合わせて 340 名の方々がベトナムの歌や踊り等、文化に触れ楽しい時間を過ごしました。中には 1 部に感動し、引き続き 2 部に参加した方がいたほどでした。開催後も次回開催のリクエストが絶えず、皆さんの満足された様子がうかがえ、実行委員会としても充足感で満たされ、既に来年度に向け意気込みを見せています。

コンサートとしても大変見ごたえのあるものでしたが、本来の目的であるチャリティにおいても、酷暑の中、東奔西走し、60 を超える団体・個人からの協賛をいただき、20 万円を超える黒字を生み出すことができました。

コンサートの 1 か月前に開催したプレ企画では、日本ベトナム平和友好連絡会議の田中秀樹さんを講師に迎え、追跡記録の『トアとトゥオン』を視聴しました。読売新聞の埼玉版で紹介されたこともあり、30 人の会場が満席になりました。参加者の皆様と枯葉剤の被害の実態を共有し、コンサートの意義をより明確にしたのは良かったと思います。

宣伝活動もかなり力をいれました。FB でイベントページをつくり宣伝しました。1 分程度のコンサート動画を 5、6 個つくり活用しました。市民活動サポートセンターに登録したことで、直前のお祭りに参加できたことや、サポートセンターの大きな掲示板で 1 か月ポスターや動画の Q アールコード等掲示ができました。駅から会場までの東武バスの車内や、市内店舗さんに貼ってもらい、ポスターは 100 枚ほぼ掃けました。夜の部のチケットがあまり出なかったのを、学童、放課後ディなどで子どもチケットを配布してもらい、当日の親子参加を促せました。直前に駅頭で 2 回ほど宣伝もしました。コンサートの音楽を流しながらの宣伝は、乗降者やバス停で待つ方の注目をあつめました。ベトナム語のポスターもつくり、市内のベトナム人の働く企業さんや、ベトナム料理店に掲載をお願いしました。1 つのレストランが、当日ベトナム料理の販売を会場でしてくれました。これも好評でした。

今年は 6 月に実行委員会を立ち上げてから 5 か月間、初めての開催に悪戦苦闘しましたが、来年はこの経験が活かされ、少しは肩の力を抜いて取り組みそうです。来年は隣町、松伏町で開催します！（2024/12/21）



昼夜 2 回公演で大盛況

## 相模原公演

### 実行委員会が機能！ 400 名を集客

公演実行委員会 金子豊貴男

2 年ぶりの相模原公演は、初めて午後と夜の 2 回公演で行った。2004 年 10 月から始まった相模原公演、今回で 11 回目となるが、毎回会場としてきた相模原南市民ホールが来年度で廃館が決定しているため、同施設を使っ



ロビーで恒例の枯葉剤パネル展示

た。公演は最後となる予定で、その分、力を入れての取り組みとなった。2 回の公演で 400 名以上を集めることができ、実行委員会は“成功”と評価した。

成功の要素について、

- ①実行委員会を充実させ、20 名以上の実行委員と会議を 5 回開いたこと。ベトナム出身の女性と、国際交流協会の活動を行ってきた実行委員が、在住ベトナム人やベトナム料理店などにビラ、ポスターをもって精力的に働きかけたこと。
- ②実行委員会に市内で演劇の上演を進めている、相模原演劇鑑賞会の方が 2 名加わり、同会の 10 月公演に位置付けてもらえたこと。その結果演劇鑑賞会の会員が多数参加したこと。パルシステム神奈川（消費者生協）の平和担当理事も実行委員に加わり、盛況の平和活動として組合員に働きかけたこと。（参加者は少なかったが。）
- ③相模原とベトナム戦争の関係、1972 年のベトナム戦争闘争の歴史が風化している現実を受け、実行委員会で当時の実写映画「ドキュメント 1972 夏」の上映会を行ったこと。
- ④ベトナム戦争と枯葉剤被害の関係を相模原の活動（当時ベトナムで使われた米軍戦車の修理、再生を相模総合補給廠で行い、道路交通法の重量制限を盾にベトナムの戦場に送るのを 100 日間阻止した横浜と相模原の戦車闘争）に結びつけ、歴史的事実の風化を防ごうとした。
- ⑤今回の公演を相模原市と市教育委員会の後援を申請、受理され、各施設に働きかけやすかったこと。
- ⑥相模原での取り組みだけでなく、周辺の町田市、座間市、大和市、海老名市、藤沢市などの働きかけを試みたこと。等があげられる

尚、公演当日はベトナムの衣装を展示、枯葉剤被害者のパネル展示などにより、相模原公演始まって以来のカンパが集まった。（2024/12/17）

## 各地の活動から

### 地域の未来を創る：ベトナムセミナー

MJVA 事務局長 川畑 匡

宮崎県・日本ベトナム友好協会(以下、「MJVA」)は、昨年11月19日、宮崎市内で125名の参加者のもと、標記セミナーを単独主催で開催しました。参加者は、宮崎県選出国會議員・同秘書、宮崎県庁、各市町村、業界団体、各企業、宮崎県内各大学、宮崎県労働局、労働団体、ベトナム人技能実習生、MJVA 及び JVPF 会員等多岐に渡りました。メイン講師は、法務省出入国管理庁が引き受けていただき、福岡出入国在留管理局からおいでいただきました。又、日本の建設現場での管理業務を目標に、ホーチミン市に法人を設立しベトナム人技術者を養成している建設会社(本社は宮崎市)からも講演をいただきました。加えて、技能実習生を雇用中の会社、これから採用計画のある2社、並びに、農業分野での技能実習生受け入れを支援している宮崎県農政水産部の担当者からもそれぞれ講演をいただき、その後パネルディスカッションを行いました。

#### セミナーの目的

「世界でも日本国内でも深刻化する人手不足は、宮崎県内の多くの産業にも影響を及ぼしています。特に農業、林業、漁業、介護などの分野では、様々な努力をもってしても、なお人材確保が困難な状況に直面しており、これら産業の持続的発展には、外国人労働者の受け入れ拡大が不可欠な状況にあります。本セミナーは、宮崎県内の産業が持続的に発展するためにベトナムとの友好を促進し、地域経済を支える具体的な方法を共有する」

#### 背景としての宮崎県情勢

宮崎県は県民一人当たり所得、最低賃金等も全国最下位クラスで、外国人労働者採用は厳しい状況にあります。これどう克服するか、宮崎県全体の課題です。

他方、2027年には良くも悪くも、技能実習制度に変わる新たな「育成就労制度」が発足します。そこで、できるだけ早く新しい制度を学び、どうすれば外国人労働者が安心して宮崎県で働いてもらう気持ちになれるかを行政、企業、各団体等が集い学び合う場を設けることとしました。

#### 今後に向けて

今回も宮崎県庁の積極的なご支援を得ました。感謝しています。この関係を維持しながら、今後は、外国人労働者を採用している、採用を考えている企業等との関係構築が必要と考えています。

一方で、厳しい労働にびくびくして辞める例や同じベトナム人に騙されて犯罪に巻き込まれてしまう技能実習生もいます。相談があれば、丁寧に対応して、出来る限りの支



援はしていますが、各企業の意識の改革及び外国人労働者を受け入れる優しい 県民世論の構築が求められています。

MJVA は小さな組織で、今回のセミナーも財政的には身の丈2倍の負担と、とても厳しいですが、外国人労働者が安心して宮崎県で働くことができる環境作りに引き続き努めてまいります。記：2025年1月1日

### 15年間に卒業した奨学生240名

HVPF 会長 赤木 達男

ともに戦争による悲惨な体験を持ち、平和への願いを同じくするクアンチ省の子どもたちの“夢と希望、そして可能性”を叶えるための“ささやかな支援”として始めて16年目。11月25日、クアンチ省少数民族寄宿高等学校を訪れ、サポーターからお預かりした奨学金を、1年生(16期)から3年生(14期)計60名の奨学生一人ひとりに届けました。奨学生はラオス国境近くの山岳地帯に暮らすバンキュウ族、パコ族、キン族、タオイ族など学力と意欲を持ちながら貧しく高校進学できない子どもたちです。

15年間に卒業した奨学生240名のうち国公立大学への進学が最も多く148名、61.7%を占めています。短期大学や専門学校が29名です。そのうち7名が朝日奨学制度の支援で働きながら、東京や横浜、埼玉などの日本語学校に留学しています。“ささやかな支援”は、確かな成果と将来への大きな可能性を育んでいます。

そのことは「授与式」での校長先生と奨学生代表のスピーチからも伝わってきました。「奨学生の62%が国公立大学に進学し、省の役人や軍、ふるさとの村で教師や医師、村役所やコミュニケーションの主要な役人、エンジニアなど多方面で活躍している。HVPFの奨学支援は生徒の学びを支え、





精神的成長の糧になると同時に、教職員のモチベーションを向上させている」(グエン・テー・ロン校長)

「特別の思いが込められた奨学金は物質面だけでなく、困難な中で学業を進めるための強さと自信を与えてくれる精神的な励ましです。明るい将来への大きな期待を込めた心からの贈り物に感謝し、学業・道徳の実践に最善を尽くすことを約束します」(ホー・ティーバオ・チャム、3年Aクラス)



朝日奨学制度で働きながら日本語学校で学ぶヴィさん。将来の夢は「日本の大学で学び、クアンチの経済発展に貢献し、日本との友好の架け橋になること」だそうです。

写真(左)は大学進学を目指し東京の日本語学校で学んでいるホー・ヴァン・ヴィさん(第11期奨学生)です。

安定的なサポーター獲得による奨学支援の継続と首都圏だけでなく、広島に留学生を迎えるための支援体制を築くことが今後の課題です。記:2024 年 12 月 21 日

## 7 回目となった「ハノイ大学短期研修」

J VPF 福岡 高木豊彦



3 大学から 19 名が参加



2015年からハノイ大学 CCJLC(ハノイ大学日本語・日本文化コラボレーションセンター)と共催してきたハノイ大学短期研修を今年も8月19日から9月2日に開催しました。

今年は3大学から過去最高の19名が参加し、無事、研修と交流を終えることができました。

研修は、例年通り、午前中にベトナム語学習(1コマ90分×7講座)、ベトナムに関する一般教養の学習(90分×7講座)を行い、午後はハノイ大学日本語学部のボランティ

ア学生と共にハノイ市内の博物館や遺跡、観光地等をめぐり午前中の授業で学んだ事を体験、体感しました。

また、日越経済関係の講座では、ベトナムに進出する日系企業(株式会社 Takagi)の工場見学や交流会を行い日系企業の現状等を知る機会を作りました。

また、研修期間中はベトナムでお馴染みの2つの世界遺産(ハロン湾、チャンアン遺跡)観光も取り入れ、研修で疲れた心身のリフレッシュをはかりました。

海外研修の良さは、デバイス上の理解、交流でなく、直接現地に足を運び、その国の言語や文化、生活、歴史に触れ体験し、国際的な視野を広げることにあります。

研修出発前の参加学生のベトナムに対するイメージは「ベトナムは、『発展途上国』、『貧しい』、『文化的経済的に遅れている』、『社会主義国で閉鎖的で自由がない』」等々でした。しかし、12日間のベトナムでの研修生活を通して、「発展途上国で遅れていると思っていたが予想以上に発展していてびっくりした」、「ベトナム人はとても親切でやさしい人が多い」「失くしたクレジットカードが戻ってくるなど安心な国とわかり、またベトナムに行きたくなった」、「ハノイ大学の学生の勤勉さ、語学能力(英語、日本語)の高さには驚かされた、自分ももっとスキルアップしないといけないと思った」等、ベトナムやベトナム人に対する印象の変化が報告されています。

2015年から始めたハノイ大学短期研修も今年で7回目となりましたが今後も引き続き進め日越の学生交流の促進に努めて行きたいと考えています。記 2024/12/24

## 枯葉剤被害、少数民族学生奨学金で訪問報告会開催

リップ代表 岩永 環

昨年 1 月のベトナム訪問は、私にとって新たな出会いと長年の「何が真実なのか?」という疑問を解くきっかけとなり、自分にできる事としなければいけないことがさらにはっきりとしてきた年でした。

そういう意味では、ようやくこれからの自分がめざすことにむかってスタートラインにたてたという気持ちです。

私が、タイ式マッサージを学ぶために初めてバンコクに行ってから 18 年が過ぎ、現在マッサージサロンや週末だけのアジアショップでタイやネパールの製品を中心に販売しています。特に少数民族の方の色鮮やかで緻密な製品は、私のおすすめの品物です。そして、2020 年にドネーションボックス・リップというグループをつくり各種団体への寄付活動をおこなっています。

このドネーション活動を始めるきっかけになったのは、タイでみた光景、歩道橋の下や道路の隅で乳飲み子をかかえて物乞いをする親子、その方達にお金を渡している人、

そして、さらに、少数民族の村やマーケットがあるタイ北部を訪れた時、家業を手伝い物売りをする小学生くらいの子ども達を見て、あれ? 今日は何曜日? 学校は?

街中で夕食をとっていると花やピーナッツを売りに来る子供、観光地では民族衣装をまとい一緒に写真に写りながらチップをもらう子ども、ナイトマーケットでは小銭を入れる箱の前に踊りを披露する子ども達の姿もありました。



報告会の模様

一生懸命に踊りをして  
いる子ども達を見ると  
少しのお金を上げたい  
という気持ちになり  
ますがそれを、あげて  
よいものか？いつも  
戸惑っていました。

それは、タイ在住歴  
がながくスクール経営  
をされていた先生が、  
「物乞いをしている人  
達は、トラックで、運ば  
れてきて、あちこちに

置かれ物乞いをしているのだ、その後ろには、」というこ  
とばでした。私のなかでは、かなり衝撃的でした。何かできる  
ことがあれば、と思うけど、する事が良いことではない、  
そして

みえている光景と自分のうけとめは、必ずしも同じでは  
なく好意は、罪をつくることになる、と考えると容易に一生  
懸命に踊る子どもにお金をわたすこともできず、その頃  
から、何が真実なのか、どうすれば、わかるのか、そんな  
疑問が渦巻き、いつの日か、真実を知りたい！という気  
持ちはふくらんでいきました。しかし、知りたいことを観光  
客の自分が容易にすることもできず、ことばの壁も大きく、  
何かをしたいとおもっても取り組むことはできませんでし  
た。

そんな時に、一昨年のベトナムアンサンブルチャリティ

報告会の案内チラシから

2024 春 ベトナム 友好の旅 報告会 & 演奏会 9月21日(土)開催

10時から11時30分 JAMPI JANPAR にて

この会は、今年1月に参加した日本・ベトナム平和友好連  
絡会議(JVPF)が、主催するツアーのご報告と演奏会です。

報告は、十分なものではありませんが、どうしてこのツアー  
に参加したのか？経緯は入れで訪れたベトナムとは、違ったベト  
ナムの姿など、そま伝えできたらと思い計画しました。

同時に、この会は、10月14日に野口遼記念館で開催予定のベ  
トナムアンサンブルチャリティーコンサートを支援するための  
ものです。

**ベトナム 訪問の内容**

- \*少数民族への支援事業 奨学金贈呈
- \*枯葉剤被害者支援事業 「仁愛の家」寄贈  
被害者調査・慰問
- \*日越友好植林事業

そして、今回は、  
ご縁あって  
YOU&A 様 ら・すみみ様 に演奏をお願いすることになりま  
した。2組のみなさまに感謝致します。ありがとうございます。

当日販売予定の尾湯工務店の珈琲やひかり工房・  
デザインタービンのお菓子など売り上げの一部  
は、ベトナムの支援事業にあてられます。  
また、当日は、募金箱も準備していますので協  
力をお願いいたします。

ーコンサートの公演で、今も続くベトナム戦争の被害者  
の事を知り、少数民族の方達への奨学生支援のことを  
知りました。

記 2025年1月1日

## 掲示板

- ・台風被害支援カンパが 50,000 円届きましたので、11  
月の植林技術者派遣団で持参し奨学金支援を実施して  
いるヴィスエン寄宿民族学校に届けてきました。
- ・駐日ベトナム大使館主催の建国 79 年の催事が昨年 12  
月にあり、村山富市市長がハノイ市名誉市民章を贈呈  
されたときの写真が掲示されていました。



Cử Thủ tướng Nhật Bản Murayama Tomiichi  
đón nhận Danh hiệu "Công dân danh dự Thủ đô Hà Nội" (Tokyo, 12/12/2014).  
村山富市元首相が「首都ハノイ名誉市民」の称号を受章（東京、2014年12月12日）

- ・日越緑の架け橋プロジェクト中止へ  
助成金事務局によると日本国外務省が当該プ  
ロジェクトへの予算付けを中止すると決定し、  
2024 年公募(2025 年中の事業)がなくな  
りました。よって、JVPF の事業も中止せざる  
を得なくなりました。

ただ、内定を受けている残りの保育事業(一期 3 年目、  
二期2~3 年目)については年度内に予算執行される模  
様です。

- ・ベトナム南部解放・統一 50 周年 JVPF 訪問団  
2025 年 4 月 29 日~5 月 4 日  
※JVPF 鹿児島、香川 KVPF は単独の訪問を予定
- ・JVPF 第 17 回総会予定  
2025 年 5 月 24 日(土)13:00~16:30 於;東京
- ・ベトナムチャリティーコンサート準備中  
2025 年 10 月 18 日~11 月 4 日

鎌田



日越緑の架け橋プロジェクト第一期(2023 年 1 月植栽)の 2 年目のスターアニ  
スの生育模様(2024 年 11 月)。2 メートルを超えるものも見受られた。友好の  
一滴になるよう生育が期待される。(2024/11/5 クオイミイ集落)

## 西国街道を歩いたベトナム象

赤木 達男

(広島ベトナム平和友好協会会長)

古今よりベトナムと縁深いわがまちとベトナム象

人口20万人の東広島市には115カ国9,474人の外国籍市民が暮らし、ベトナム人は中国に次ぐ1,887人、約20%を占めている。その東広島は古代より大陸との玄関口・博多や長崎から京や江戸をつなぐ「陸の回廊」(西国街道、古代山陽道)と「海の回廊」(瀬戸内海)が走り、ともにベトナムとの縁は深い。

奈良時代にはチャンパ国の仏哲(ふつてつ)が平城京に向かい、唐からの帰途難破し崑崙(こんろん)に漂着した平群朝臣広成(へぐりあそんひろなり)や都護として安南(あんなん)(ハノイ)に赴任した阿倍仲麻呂(あべのなかまろ)が瀬戸内航路の要、安芸の津(風速)を経て唐に向かった。296年前には、8代将軍徳川吉宗が求めたベトナム象が長崎から江戸までの旅の途次、西国街道四日市宿(東広島市西条町)に投宿した。

初めて見る珍獣 大わらわの宿場

享保13年6月(1728年7月)、雄雌2頭のベトナム象が長崎に着いたが、雌象は数ヶ月後病で亡くなる。翌年、長崎奉行らに伴われての江戸まで354里(約1400km)75日間の旅は実に興味深い。なにしろ見たことも飼ったこともない珍獣を將軍様に無事お届けしなければならないのだ。その苦労ぶりは長崎奉行所の御触書や沿線各藩に残された文書(もんじょ)から覗える。

3トンの象が渡るため土橋や板橋の補強、欄干設置、坂道の滑り止めに「海砂でも川砂でも良いからまく」こと、川を渡す舟の大きさや形状なども細かい。藁(わら)と熊笹150斤(90kg)、いたぶ葛(表記は元のまま)(140斤)、青麦(20束)、九年母とだいだい(50個)、大唐米(8升)など、指示された餌の量も半端ではない。餵入饅頭(150個)、焼酎(2、3升)まで書かれている。



四日市宿の地図

象小屋も2頭分の馬小屋の仕切りを除き、高さ8尺(2.4m)、入口3間(5.5m)、横2.5間(4.5m)と指示。「隙間風が入らないよう」とか、「小便が多いので濡れないよう藁を2尺(60cm)敷くこと」など細かい。

四日市宿の宿舎は、今もJR西条駅東に遺構が残る広島藩の本陣(御茶屋)だ。宿場出入口の橋補強から本陣内にある馬小屋の改造、近隣村には餌の手配や道路補修を指示する飛脚が飛ぶ。現在の竹原市から餌を運んだという「竹

原下市村覚書」や代官が本陣に付き切りで差配した記録が「木原家文書」に残されており、てんやわんや(……)だった様子が目に浮かぶ。

おっかなびっくり！ 象を見た広島っ子

象は子どもに限らず動物園の人気者だが、当時は日本にいない生き物。誰しも見たくなるのが心情というもの。ところが、「通筋家々簾(すだれ)を釣り、或いは戸口を閉め、家内人集まり候体、見え申しぬよう」と広島藩は御触を出している。さらに、「蟻、鼠、牛馬、犬猫嫌い申し候やの事、広島御城下前日より繋ぎ申し候、尤(もっと)も、小鳥等迄外へのけ申し候」、「象泊まり候せつ、もし出火これあり候らいても、鐘撞(かねつ)き堂にて鐘撞き申すこと無用申し付け」・・と続く。象は牛馬や犬猫を嫌うので前日から繋いでおけ、火事があっても象が驚くので鐘を鳴らすなというのだ。なんとも迷惑な話だ。

でも、ちゃっかりと“広島っ子”は見ていた。西条四日市宿に象の餌を届けた下市村(現竹原市)の庄屋が残した記録に、「象の見物について殊のほか厳しく仰せ付けられているので、町中や往来で触れ聞かせている。しかし、見物の噂もあるので道路に出てみたら、やはり多くが見物していた」と書かれている。

「時代の寵象」 哀れな死を乗り越えて

大井川の渡しに苦勞し、箱根越えてダウンしながらも江戸に着いた象は將軍吉宗に謁見、瓦版(かわらばん)や錦絵、双六で江戸っ子の人気者になった。しかし、「時代の寵(ちよう)象」は長く続かなかった。「金食い象」として民間に売り渡され、日本に来て14年後の寛保2年12月(1743年1月)、象の平均寿命の4分の1、21歳で亡くなった。

当時のベトナムの時代背景、象を求めた徳川吉宗の時代背景をみると興味深い。紙数の都合で触れられない。ベトナム象は北部の鄭(ちん)氏と中部の阮(ぐえん)氏が対立する内乱時代の外交戦にも及んだ覇権争いの具にされたのかも知れない。徳川吉宗からは、徳川幕府の権威復活の具に使われた挙げ句、「金食い象」として捨てられた。ベトナム象の無残で哀れな死は居たたまれない。しかし、長い日越交流史の中で、長崎から江戸まで歩いた雄象ほど、日本人がベトナム(交趾国(こうちこく))を知り、これほどに関心と親しみを沸かせたことは他にないと思う。今年「南部解放(ベトナム戦争終結)50周年」、「被爆80周年」というベトナムとヒロシマにとって大切な歴史的な節目の年。日本とベトナムの平和友好交流を一層深めたい。(拙稿『西国街道を歩いたベトナム象』ご希望の方は [akataku@d4dion.ne.jp](mailto:akataku@d4dion.ne.jp) までご用命ください)



ベトナム象が描かれた当時の瓦版